

図書館のPR実践

蛭田廣一(小平市企画政策部)

講義の流れ

0.はじめに(10分)

講師自己紹介

1.グループで受講者自己紹介(50分)

自己紹介の課題(20分)

- ・自己紹介(自分が勤めている図書館の紹介を含む)
- ・PRできる主要な事業 事前課題に沿って
- ・現在抱えている課題

自己紹介を聞くポイント

- ・誰の話の内容が魅力的だったか その理由は
- ・誰の話が分かりやすかったか その理由は

役割分担

- ・司会進行・時間管理
- ・記録
- ・評価・報告1
- ・評価・報告2

評価・報告 魅力的な話と分かりやすい話(20分)

講師の講評(10分)

2.休憩(15分)

3.PRの方法と必要性(15分)

【テキスト】西田清子『図書館をPRする』(図書館員選書13) 日本図書館協会 1997
山見博康『広報・PRの基本』日本実業出版社 2009

4.図書館の専門職は何をすれば良いのか(50分)

「図書館経営と地域課題の解決」

5.まとめ(10分)

3. PRの方法と必要性

PRの定義

「PRはPublic relationsの略で、一般に宣伝活動、情報宣伝活動などと訳されることが多い。図書館活動においては、図書館の現状、方針、利用手続きその他を宣伝して利用促進をはかる活動をいい、広報活動ともいう。」(『図書館用語集 改訂版』日本図書館協会)

PRの意義

「図書館PRは、図書館を正しく住民に知らせ、それを十分に使いこなしてもらおうと同時に、住民の要求を知り、図書館の改善につなげる、つまり、図書館を真に住民のものにしていくための働きかけであるということができる。」(『図書館ハンドブック 第5版』日本図書館協会)

PRの方法

【『図書館用語集』 PR活動】

- ・新刊書や新収図書の紹介
- ・図書館行事・集会活動の案内
- ・館内の案内掲示
- ・印刷した広報資料の配布
- ・自治体の広報誌や新聞等への記事の掲載
- ・テレビ・ラジオ等の利用

【『図書館をPRする』 市民をひきつけるステップ計画】

- ・コンピュータ検索
- ・インターネット
- ・プレスリリース
- ・ケーブルテレビ
- ・シンボルマーク
- ・インテリア
- ・広報
- ・利用案内
- ・館報
- ・ポスター
- ・貼り紙
- ・棚揃え

プレスリリース作成の基本

- ・簡潔、伝達したい内容を網羅、文を短く、枚数は1～3枚、情熱を込めて書く
- ・タイトルにキーワードを
- ・リード部分に結論を
- ・ビジュアルに 読んでわかるより見てわかる
- ・バックデータをつけると信頼性が増す

計画の実践(『資料保存の調査計画』 地域資料の調査と計画)

- ・知り得た知識や技術の実施 計画と予算
- ・事業の必要性に対する理解 調査・研究
- ・組織のルールを知る 知識と情熱
- ・行政計画への位置づけ 長期総合計画・実施計画・事業計画
- ・組織のラインとスタッフへの説明 人の気持ちを動かす
- ・事業の説明と情報発信 資料は使われてこそ意味がある

4. 図書館の専門職は何をすれば良いのか「図書館経営と地域課題の解決」

1. はじめに

- 1) 図書館サービスを活性化するために
図書館サービスの可能性と行政課題の実現
- 2) 行政計画と図書館サービス計画
長期総合計画及び実施計画における図書館の位置づけ
- 3) 図書館事業概要とマニュアルの整備
行政機関としての事務報告と市民への説明責任
- 4) 研修成果の共有
全体研修と自己研鑽

2. 「小平市第三次長期総合計画・前期基本計画」における図書館サービスの位置づけ

【本計画における基本方針】

- 1) 市民や利用者にとっての便利で頼りになる新しい図書館サービスとして、図書資料や地域資料などの充実とともに、レファレンスサービスや児童サービスを、図書館の基幹的なサービスとして位置づけます。
- 2) さらに、情報技術を駆使した図書館の情報機能の充実や情報基盤の整備を促進するとともに、学校図書館との連携を進めます。
- 3) また仲町図書館については、近隣の仲町公民館との建替え時期にあわせて施設の統合化を行い、情報技術により利用者の創造性をより高めていきます。
- 4) 今後、地域に関心が高まることが予想されるなかで、現存する貴重な資料を整備し、提供することにより、小平の市史の編さんを支援するなかで、貴重な歴史や文化を記録し、広く理解してもらうことが必要です。

3. 地域の課題解決と地域資料

- 1) 「これからの図書館像 - 地域を支える情報拠点をめざして - 」
図書館活動の意義の理解促進
レファレンスサービスの充実と利用促進
課題解決支援機能の充実
紙媒体と電子媒体の組合せによるハイブリッド図書館の整備
多様な資料の提供
児童・青少年サービスの充実
他の図書館や関係機関との連携・協力
学校との連携・協力
著作権制度の理解と配慮
- 2) 地域課題と図書館サービス
大串夏身編著『課題解決型サービスの創造と展開』青弓社
行政支援 市議会での一般質問

生業支援 学校教育支援、ビジネス（地場産業）支援、子育て支援
生活支援 医療・健康、福祉、法務等に関する情報

4．地域資料の情報発信

1)先進事例

- ・秋田県立図書館の「デジタルライブラリー」 <http://www.apl.pref.akita.jp/>
- ・岡山県立図書館の「デジタル岡山大百科」 <http://www.libnet.pref.okayama.jp/mmhp/>
- ・立川市立図書館の「立川市関連新聞記事見出索引データベース」
<http://plng.p.u-tokyo.ac.jp/html/news-db/index.html>
- ・調布市立図書館の「市民の手によるまちの資料情報館」
<https://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/machi/index.html>

2)小平市立図書館の事例

- ・こともきょうどしりょう <http://library.kodaira.ed.jp/local/tkk/tkk.htm>
- ・古文書コーナー http://library.kodaira.ed.jp/local_komonjo.html
- ・刊行物案内 http://library.kodaira.ed.jp/local_publist.html
- ・30年のあゆみ <http://library.kodaira.ed.jp/local/30years/top.htm>
- ・地域資料分類表 http://library.kodaira.ed.jp/local_bunrui.html
- ・地域資料室マップ http://library.kodaira.ed.jp/local_map_k.html
- ・地域資料展解説 <http://library.kodaira.ed.jp/local/shinsen/shinsen-top.html>
- ・新聞記事索引（昭和52～平成14年度） <http://library.kodaira.ed.jp/nspsearch.html>
- ・地域の歴史と文化（情報ボランティア作成中）
- ・小平町報・市報記事索引（市史編さん室で作成中）

5．まとめ

堺屋太一『時代が変わった』講談社 2001

規格大量生産型の近代工業社会から知価社会へ

効率・安全・平等の正義から自由と楽しさを加えた価値観へ

関満博『地域産業の未来 - 二一世紀型中小企業の戦略 - 』有斐閣 2001

「二一世紀は、グローバルと同時にローカルの時代になる。また、日本は誰も経験したことの無い少子高齢化社会に突入する。さらに、IT化が進み、社会構造は大きく変わり、また、地球環境問題がいつそう重要な問題になってくる。それでも「地域」は永続するのであり、その「地域」を豊かにし、次の世代に引き継いでいくことが、私たちに課せられた最大の課題であることはいままでもない。」

中谷巖『資本主義はなぜ自壊したのか』集英社 2008

「日本型の組織の強さは、組織のトップから現場に至るまで、全員が当事者意識を持って問題解決に当たることにあり、そうした平等性の上に成り立つ『現場力』があったからこそ、日本は近代化に成功したし、企業も競争力を高めるのに成功した」

図書館経営と専門職員

図書館経営は、単に管理職が担うだけではだめで、図書館の仕事に生甲斐と遣り甲斐を感じる専門職が経営に参加することが欠かせない